インフルエンザを予防する

例年12月から4月にかけてインフルエンザが流行します。今年もインフルエンザが猛威を振るう季節が近づいて来ました。

インフルエンザが流行ると、幼稚園や小中学校の学級閉鎖や各種行事の中止など、いろいろなところでさまざまな支障が出てきます。

２００９年には新型インフルエンザが発生。世界的大流行となり、日本でも同年秋季に大規模な流行となりました。

今回、あおば保育園の取り組みを紹介しながらインフルエンザとその予防について考えます。

あおば保育園の取り組み

和水町板楠にあるあおば保育園では保育士とは別に２人の看護師が勤務しています。看護師は、子どもたちの突然のケガや病気の対応、病児・病後児保育、そして感染予防など、子どもたちが元気に毎日を過ごせるように、日々努力しています。

今回は、あおば保育園の看護師の杉本登代さんと田辺恵里さんに感染症やインフルエンザの予防法について聞きました。

①手洗い

感染症予防の基本である手洗いですが、洗った後に手を拭くタオルに菌が付いていると意味がありません。あおば保育園では、インフルエンザやノロウイルスの流行期に、タオルではなく紙ペーパーに変えています。ちなみにアルコールはノロウイルスには効果はなく、ごはんやおやつの前に子どもたちの手に専用消毒液をスプレーして消毒をしています。

②消毒

テーブルやドアノブ、床、畳、おもちゃなど、子どもたちが触る場所は、次亜塩素酸ナトリウムで特に気をつけて一日に何度も掃除をして消毒をしています。あおば保育園では、５００ミリリットルの水に、次亜塩素酸が入っているキッチン用の漂白剤を２cc(ペットボトルキャップ半分程度が目安)を混ぜて、毎朝消毒液を作っています。殺菌作用が薄くなるため、遮光性の容器に入れて、一日で使い切っています。

③規則正しい生活

免疫力を上げるためには食事・睡眠をしっかりとることと適度な運動がとても大切です。また、お子さんに、普段よりも食欲がない、おとなしいなどの変化があれば早めに掛かりつけの病院で受診してみてください。

①おやつの前に先生がテーブルを消毒します。
②楽しそうにおやつを食べるあおば保育園の子どもたち。
③子どもたちの手を消毒液で消毒しています。
④各教室にある吐物処理用バケツ。子どもが嘔吐したときに先生たちがすぐに処理できるセット。二次感染を防ぎます。

あおば保育園では、何よりもまず、子どもたちが自分自身で予防ができることを目標にしています。「体調が悪い」と保護者や先生に自己主張できる、せきをするときには口を手で覆う、鼻をかんだティッシュをちゃんとゴミ箱に捨てるなど子ども自身が行動することを大切にしています。

他にも保健だよりを発行して、掲示板などに貼り、保護者の皆さんにその時期に流行している病気の予防法などを発信しています。

また、今年から町内の保育園看護師で連携を図り、園児の健康管理と保持・増進を目的とした会を設け、情報交換などを行っています。町内の子どもたちが元気に過ごせるように今後も予防・対策に努めながら、病児・病後児保育などを通して保護者の皆さんの支援もしていきたいと考えています。

社会福祉法人 あおば会あおば保育園 看護師
田辺（たなべ） 恵里（えり） さん
杉本（すぎもと） 登代（とよ） さん